外国特許トピックス

2020年9月
特許業務法人志賀国際特許事務所
（外国事務部　加藤基志）

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
外国特許出願に関し、最近のトピックス等をお知らせいたします。

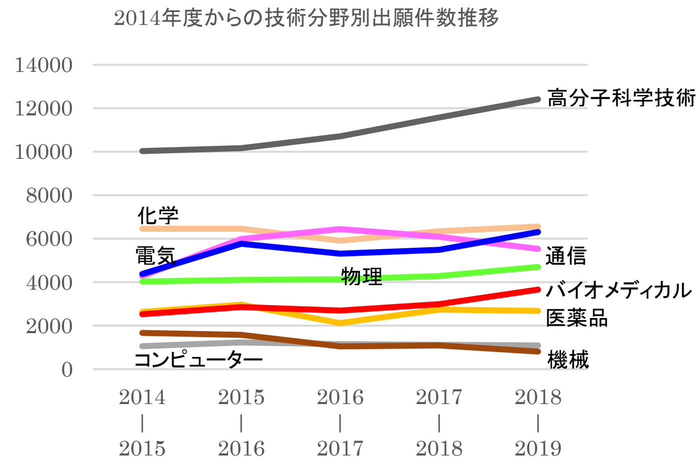
2018 年度のインド特許出願統計

インド特許庁より公表されている 2018 年 4 月 1 日から 2019 年 3 月 31 日までの 1 年間におけるインド特許出願統計（最新版年報）に基づき、インド特許出願の概況について紹介いたします。

1. 出願件数

2018 年ー2019 年のインド特許出願総件数は 50,659 件（前年比 5.9%増）でした。内訳は以下のとおりです。

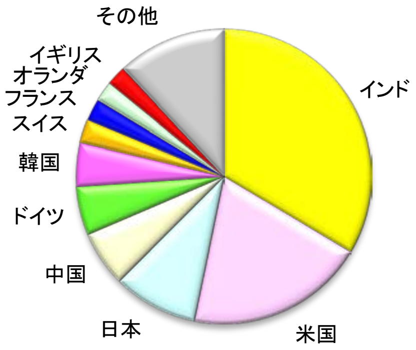
		2018-2019	前年比
内国人		17,005	+9.4%
外国人	第 1 国出願	2,777	+21.3%
	パリルート	3,911	+8.3%
	PCT ルート	26,966	+2.1%
	合計	33,654	+4.2%
総合計		50,659	+5.9%



出願総件数は 50,000 件を突破しました。全般的に増加傾向ですが、特に外国人第 1 国出願件数増加が顕著でした。技術分野別では、バイオメディカル（22.1%）、電気（15.0%）、物理学（9.9%）を中心に前年に比べて大きく伸びました（括弧内は前年比）。

2. 上位出願国（10 ヶ国）

順位	国名	2018 年度	前年比（%）	全体占有率
1	インド	17,005	+9.4%	33.6%
2	米国	9,959	-2.2%	19.7%
3	日本	4,698	+4.7%	9.3%
4	中国	3,083	+19.9%	6.1%
5	ドイツ	2,702	-2.6%	5.3%
6	韓国	2,406	+38.6%	4.7%
7	スイス	1,330	+4.9%	2.6%
8	フランス	1,213	+2.4%	2.4%
9	オランダ	1,130	-18.5%	2.2%
10	イギリス	1,097	-3.4%	2.2%
―	その他	6,036	+8.1%	11.9%
合計		50,659	+5.9%	100.0%



内国人出願件数が全体の 3 分の 1 を超えました。インドは世界でも高い経済成長率を見せています。人口も世界第 2 位でかつ人口構成が若いことから継続的に高い労働力を期待でき、今後も経済が成長していくものと見込まれます。他の国では、中国がドイツを抜いて 4 位に躍り出ました。韓国は最近 2～3 年二桁代の前年比増です。外国企業別出願件数で 2 位の韓国 SAMSUNG はインド国内においてテレビやスマートフォンの大手外国企業としてインドでの市場拡大を図っており、今後も韓国の出願件数が増加することが予想されます。

3. 審査および登録件数

2018 年ー2019 年の審査件数（Office Action 発行件数）は 85,426 件（前年比 41.6%増）、登録件数は 15,283 件（前年比 17.2%増）でした。審査官 220 名の新規募集が完了し、実習を経て各分野の審査グループに配属される予定です。現地代理人によりますと、通常案件は審査請求から 24～30 ヶ月以内で、PPH 案件は 12～18 ヶ月で審査が開始されると見込まれています。今後更なる審査促進に期待がかかります。

****

■続報／2019 年 12 月外国特許トピックス「日本ーインド間の PPH 試行開始」

インド特許庁は昨年末に日本特許庁との間で開始した PPH 試行プログラムについて、2020 年 7 月 27 日付で通知を発行しました。通知の内容は、受け付けた 100 件のうち 91 件が申請書を提出することを許可され 9 件が拒否されたため、2020 年 8 月 10 日より拒否された 9 件の枠の受け付けを再開するというものでした（9 件枠は再開当日に埋まりました）。インド特許庁は申請拒否理由を公開していませんが、現地代理人は「申請案件において実体審査が開始されていないこと」という条件を満たしていない場合が多く考えられるとコメントしています（インド出願では審査官に審査が割り当てられた時点で実体審査が開始されたとみなされます）。インド PPH を申請する際は事前に日本ーインド間 PPH ガイドラインで申請条件をよくご確認いただくことをお勧めいたします。

以上